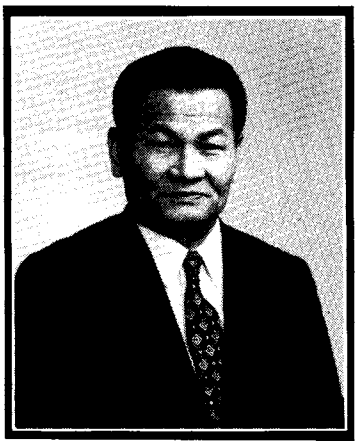
武内次夫先生の訃に接して



日本熱測定学会前会長
お茶の水女子大学教授　中西正城

本学会1975年度会長　武内次夫先生には去る7月4日御出張先の英国ケンブリッジにおいて急逝されました。報を受けてあまりにも急な，予想だにしなかった突然の事態に声もなく，ただ痛恨の思いに駆られるだけでありました。

先生は同地で開催された国際分光会議・国際原子分光会議に御出席中で，3日午後(現地時間)招待講演をされた後急に不調を訴えられ，直ちに入院治療を受けられましたがその甲斐もなく，午後6時50分（日本時間4日午前2時50分）同会議に参加の日本人学者数名に看取られながら64年余の御生涯を閉じられたということであります。 先生は平素極めて御壮健であったと存じておりますだけにまことにお痛ましい限りであります。ここに先生の御冥福を心からお祈り致します。

先生は1914年台北にお生れになり，旧制台北高等学校を経て1938年東京帝国大学工学部応用化学科を卒業されました。その後2回に分けて足かけ8年の軍務に服された期間がありますが，1951年山梨大学工学部教授，1958年よりは名古屋大学工学部教授として主として分析化学の教育と研究に従事され，さらに多数の学問上の後継者を育成されています。

先生と本学会との繋りは主として温度滴定の研究を通じてでありますが，先生の御関心ある分野は非常に広く，しかも常に時代の先を読取ることを心掛けられ，門下生に対しては創造性を高くと説かれるのが常であったと承っております。御業績については「工業材料中の微量不純物の分析法に関する研究」に対して1966年度日本分析化学会賞が，「クロマトグラフィーの基礎と応用に関する研究」に対して1971年度日本化学会賞が授与されていることを申上げるだけで十分であろうと思います。

仄聞するところをも加えて，先生の御生涯，特に後半生は学問のため，学界のため，さらに人のために尽すことを信条とする御日常であったと思います。本会会長に就任方をお願いしたのも先生の御力量だけではなく，上のようなお人柄をも恃んでのうえであります。先生ははじめは辞退されていましたが，関係者一同の切なる依頼に遂には応えて下さった次第であります。第5回国際熱分析会議（1977年京都）の開催を2年後に控えて極めて多事の時期でありましたが，先生はそのためにも御献身下さり，また同会議の組織委員として御活躍下さいました。同会議の成功は先生のお力によるところ少なからず，会員一同深く感謝するところであります。

長年の御本務の名古屋大学教授としては工学部長や評議員の要職に付かれ，学外にあっては1974年度日本分析化学会会長，1975年度本会会長，そのほか日本学術会議，学術審議会，日本学術振興会など多種の活動に協力されており，文字通り寧日なき御日常でありました。

昨年名古屋大学を停年御退官ののちは新設の豊橋技術科学大学に移られ，物質工学関係の学系長として新しい大学創成の御努力を続けられる日々であったと承っております。この点ではまだ進行中のことや御計画中のことが多くあったのではないかと想像しますが，それにつけても有力な方をあまりにも早く失ってしまったと惜しまれてなりません。先生の御他界は広く学界にとってもかけ替えのない損失ではありますが，これも運命の致すところと受取らざるを得ません。先生の霊安らかれと祈ります。